

30P1-am117

簡易懸濁法チェックシートの作成と評価

○松橋 恵理¹, 村上 恵理子¹, 小川 満希¹(¹新札幌恵愛会病院薬)

【目的】当院は消化器科であるため PEG 造設の患者が多く、簡易懸濁法を導入して2年が経過した。そこで導入後の現状の把握と簡易懸濁法を実施している患者情報を薬局内で共有できるようにチェックシートを作成した。

【方法】2006年6月～12月の半年にわたり看護師・患者・患者家族に聞き取りし薬剤師がチェックシートの記入を行った。チェック項目は薬剤師間で検討し、追加や変更を行い14項目となった。

【結果・考察】今まで当院薬の簡易懸濁法の可否を判断するにとどまっていたが、チェックシートを用いることにより持参薬や後発品の可否も同時に検討することができるようになった。また、経管投与ハンドブックに収載されていない後発品のデータも蓄積できるようになった。看護師からの情報収集でチューブトラブルも未然に防げるようになり、NST委員会や褥瘡委員会の情報を記入することで患者の総合的な状況を薬剤師間で把握しやすくなった。今後の課題として、医師・看護師・各委員会への適切なフィードバックを迅速に行えるようにしていきたい。